発刊に当たって

2010年のノーベル化学賞は，デラウェア大学名誉教授のRichard F.Heck氏，パデュー大学特別教授の根岸英一氏，北海道大学名誉教授の鈴木章氏の３氏が受賞しました。日本人化学者が２名受賞したことは，我が国にとって大きな励みになりました。

特に，北海道で生まれ，育ち，学び，北海道大学で研究を続けてこられた鈴木章氏の受賞は，道産子による道内大学での研究が世界に通用することを指し示し，道民や本道の子どもたちに大きな喜びをもたらすとともに，勇気と希望も与えてくれました。

また，子どもたちの理科を学ぶ意義や有用性に関する意識の低さが課題となっている中，今回の受賞理由となった「クロスカップリング」という反応は，医薬品や液晶などの製造に利用されている技術であることから，化学の研究の成果が私たちのくらしに生きていることを，子どもたちに強く印象付け，多くの子どもたちの科学技術に対する興味・関心を高めたものと思われます。

理科教育センターとしても，理科教育の推進を支援するため，身近なものを生かした教材開発や授業改善，学校での実践成果の交流，子どもたちの理科教育の振興などに取り組み，本道の子どもたちの将来に繋がるよう，今後とも先生方と力を合わせて，本道の理科教育の一層の充実に努めていきたいと改めて意を強くしたところです。

本研究紀要は，平成22年度に理科教育センターの職員及びフリープラン研修の受講者が取り組んだ調査研究や研修の成果をまとめたものです。

この研究紀要が，各学校における教材研究や研修会，創意工夫を生かした理科の授業など，様々な場面で活用され，本道の理科教育の振興に広く役立てられることを願っています。

最後になりましたが，文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部総括研究官後藤顕一氏から特別寄稿していただいたことに感謝申し上げます。

平成23年３月

北海道立教育研究所長
穂　積　邦　彦